

研修名

新規採用者研修

平成30年6月8日(金) 10:00~16:00

講演・ワークショップ 「子どもの最善の利益と尊重」

「保育における環境構成」

「子どもとの関わり」

講師 大阪総合保育大学・同 大学院 教授 大方 美香 氏

1 講演要旨

1) ①「子どもの最善の利益と尊重」

子どもも一人の人間である。3歳までに大切に育てられた子とそうでない子では、成長の仕方が異なる。育った環境は、40歳を過ぎてからの社会貢献できる人かどうかにも関わってくるといわれている。幼少期に一人の人間として、存在を認めてもらったり愛情を持って関わってもらったりすることが非常に大切である。

日々の保育では、自分をコントロールして、すべての子どもの気持ちに気づくことが大切である。保育を振り返って、「今日の保育はどうだったかな…」「みんなに声をかけられたかな」と考え、一人ひとりの子どもの事を尊重する。

②「保育における環境構成」

保育所に登所している子どもの中には、0歳からや1・2歳から入所する子など様々である。また、近年では、核家族の増加や共働きの保護者など家庭環境も様々であるため、子どもたちの生活環境の違いは大きい。家で当たり前になっていることでも保育所ではやってはいけないことや、生まれて初めてすることなど、子どもたちにとって、保育所の環境にすぐに適応していくことは非常に難しいことである。保育者は子どもの気持ちを理解し、丁寧に関わっていく必要がある。

③「子どもとの関わり」

1日の中でほとんどの時間を保育所で過ごしていることが多い子どもたちは、安心して過ごせる環境や、普段どのような言葉をかけてもらっているかで心が育っていく。

保育者は、子どもたちに与える影響が大きく、人間としてのモデルになることを意識して関わっていくことが大切である。

2) ワークショップ (お題「ままごと」「手洗い」「抱っこ」)

「ままごと」では、ただの遊びではなく、5領域から考えると、年齢に応じて使うものや設定が変わり、遊びを通して成長することができる。

「手洗い」では、水というものに出会い、「つめたい」「気持ちいい」という感覚を味わいながら、共感することで言葉の豊かさを養うこともできる。

「抱っこ」では、ただ世話をするのではなく、愛情を持って抱きしめてあげることで、子どもが自分というものの存在を知ることができる。6か月までの関わりの中で、顔を見て名前を呼んであげたり、スキンシップを取ってあげたりすることが大切である。

2 感想

今回の研修を受けて、当たり前のことであっても、自分が保育の中でしっかりとできていたのかなと反省することがいくつかありました。私は、1歳児の担任なので、落ち着いた関わりや、優しい言葉掛けを普段から意識しています。しかし、保育の中で、焦ってしまうと、注意や大きな声で話してしまうことが増えてしまうので、「保育者の気持ちに子どもは大きく影響される」と聞いて、本当にその通りだと感じました。自分が焦っていると、子どもたちもそわそわしてなかなか気がこっちに向いていないですが、自分が落ち着いて一人ひとりの子どもに気をかけて関わっていると子どもたちも落ち着いて話を聞くことができます。毎日、「今日の保育はどうだったかな」と振り返り、自分をしっかりとコントロールして子どもの気持ちに気づくことができる保育者になりたいと思います。

(記録 宇治田原町立保育所 藤野 光子)

